

令和8年4月14日

浜田市議会議長 様

議員名 大谷 学

研 修 受 講 報 告 書

下記のとおり研修を受講したので報告します。

記

1. 研修名

地方議員研究会主催
財政のプロから学ぶ基礎研修
「歳入の基礎」
「歳出の基礎」

2. 受講の目的

- ・ 歳入と歳出の基礎を学ぶことによって税等に対する基本的知識を知り予算決算委員会等での質疑に生かすため
- ・ やりたい事業や地域活性化を創出した具体的事例を学び、浜田市における地域活性化に向けた政策の提言に生かすため

3. 期間 (移動日を含む)

令和8年3月30日(月) ～ 令和8年3月31日(火)

4. 経費

経費 69,490 円
(経費内訳 受講料 30,000 円 、旅費 39,490 円)

5. 研修のポイント・議員活動や市政への反映など

- ・ 歳入の項目である地方交付税などの仕組みや経常経費削減へのビルド&スクラップの必要性を学び、政策的投資による市民の福祉向上に向けた個人一般質問に生かす。
- ・ 予算査定の基本的考え方や政策実現に向けたロジックの構成等を理解し、将来的視点を持った政策的優先順位の重要性を学ぶことによって今後の施策提言に反映させる

6. 研修内容

(詳細は別紙のとおり)



地方議員研究会主催研修の概要

- 1, 日時 令和8年3月30日 13:30~16:00
講座「歳入の基礎」
令和8年3月31日 10:00~12:30
講座「歳出の基礎」
- 2, 場所 京都 JA ビル (京都市南区東九条西山王町1)
- 3, 主催 地方議員研究会
- 4, 講師: 今村 寛 元福岡市職員 (財政局財政調整課長など歴任)
5. 講座内容

I 講座「歳入の基礎」について (財源確保の王道とは)

- ① 財政が厳しいとは
- ・ 社会保障関係費や公共施設等の改修・修繕経費など**経常的経費の伸びが一般財源総額の伸びを上回る。**
 - ・ 政策的経費に使える財源が減少する傾向。
 - 財政健全化の必要性がある

政策的経費：社会課題解決のために新たに投じる経費

経常的経費：過去の政策決定による運営コスト

新たに「やめる」という政策決定をしない
限りコストが増大し、新たな政策に投じる
財源がない＝「財政が厳しい」

- ② なぜ「政策的経費」が必要か
- ・ マスタープランに定められた自治体の将来像を実現するため
 - ・ 実現できないことは市民との約束違反
- ③ 地方自治体の借金は「社会資本整備」が目的
- ・ 地方自治体は「赤字」を埋めるための借金はできない。
(国は「赤字国債」で可能)
 - ・ 「社会資本」は建設に一時的に財源が必要だが、
長期にわたり利用することが可能



④ 「社会資本整備」に借金が可能な理由

- ・長く使う施設を建設時の市民の税金だけで負担するのは不公平。
- ・投資により整備された社会資本を享受する現在および将来の市民で負担すべき

⑤ 借金をしていいのはどんな時

- ・市民は現在の自分たちが納めた税金の範囲内でしか行政サービスを受けられない → **会計年度独立の原則**
- ・社会資本整備以外の借金は将来の市民からすれば使ってもいないサービスに請求書が回ってくるのと同じ

⑥ 地方交付税とは

- ・国民が全国どこに住んでいても法令等で定める標準的な行政サービスが受けられるための財源保障の仕組み
- ・地方固有財源として国税の一定割合を配分

⑦ 地方交付税の仕組み

- ・基準財政需要額と基準財政収入額（地方税の75%）との差額
- ・基準財政需要額は人口、面積などの測定単位ごとに行政目的ごとの費用を掛け合わせて算出 → **特定財源ではなく用途は自由裁量**
- ・基準財政需要額は財政運営の基準ではない

⑧ 臨時財政対策債

- ・国が算定する各自治体の基準財政需要額と基準財政収入額の差額に対して配分する地方交付税の原資が不足する場合に「各自治体が特例として発行する地方債」
- ・将来の交付税財源の先食いによる財源保障

⑨ 経常財源と臨時財源

- ・経常収支の考え方
毎年入ってくる収支で毎年の支出を賄う
- ・ふるさと納税は臨時財源

⑩ 財源確保の王道とは

- ・収支の均衡を図りつつその範囲内で**政策の優先順位を最適化**できること → **ビルド&スクラップが徹底できる組織運営**

【所感】

- ・政令指定都市である福岡市財政局財政調整課財政調整係長として6年、財政調整課長として4年のキャリアを持つだけあって市職員としての立場からの説明や指摘は議員として刺さるものがあり理解しやすかった。

- ・ 経常財源か臨時財源か、一般財源か特定財源か、自主財源か依存財源かなど財源にはいろいろな意味合いがある。財源を確保しなければ政策的経費を生み出すことはできず市民福祉の向上につながらない。基本的かつ重要な視点を再認識することができたと感じる。
- ・ 役所の仕事には自治事務と法定委任事務がある。法定委任事務は法律や県条例によって国や県から委任された事務である。市独自の自治事務も過去の政策で決まった毎年実施する使途が決められた財源である。よって、新たに政策的に利用できる財源は限定的ということが再認識できた。
- ・ 現状と将来における収支の見通しの中でビルド&スクラップに向けた提言に努力したい。

II 講座「歳出の基礎」について

(未来からの声を聴くのは誰だ)

予算査定のチェックポイント

- | | | |
|----|--------------------|-----------------------------|
| 1. | Action (事業内容の磨き上げ) | 個々の施策事業の有効性、効率性の確認 |
| 2. | Vision (将来像の実現) | 目指すべき街の姿への目標と成果、そのための優先順位付け |
| 3. | Frame (枠組みの堅持) | 収支の均衡、財政規律、将来的負担の確認 |

① ロジックモデルの重要性

- ・ ロジックモデルとは政策実現手段についての論理展開
- ・ 政策の実現可能性を重視すべき
課題解決の手段として採用する方法が課題
論理的に因果関係として説明できて解決の手段たるかが重要

② 課題と目標を区別することが大事

- ・ 例「早期退職者が多い」は課題か現象か
- ・ 「成果指標」は目標ではなくモノサシ
- ・ 中間アウトカムを設定せよ

③ 何を実現するための施策かが重要

- ・ 移住定住政策では今住んでいる人のための政策を
移住施策が今住む人のためになることの説明責任
- ・ to doではなく to be を (神戸市の子育て政策は注目)
- ・ 政策は社会を「ありたい姿」に変化させる具体的行動

④ 政策実現の最大のカギは

- ・当事者意識が成功へ導く
- ・市民の連携・協力が得られるための仕掛けの内在
「おもしろそうだね」と言ってもらえるか

⑤ 費用対効果

- ・「費用対効果」が「費用対費用」になっている
- ・費用対効果で評価できるのは手法選択だけ

⑥ 将来像の実現

- ・マスタープランが目指す目標
- ・行政評価でコミュニケーションしていこう
- ・事後確認のための事前確認が重要

⑦ 優先順位は誰が決める

(1) 総合計画、(2) 政策推進プラン、(3) 市政策取組方針

担当領域での政策効果を最大化する経営へ

- ・未来の市民から良いと思われる政策が大事
- ・決定に至る過程を可能な限り文章で残す、未来の市民が後世に検証できるようにすべき

【所感】

- ・ アメリカインディアンには「7代後を考えて判断せよ」との意味の格言があると聞く。7代後といえは約200年後だろうか。時代変化の速さを考えると200年後は難しいが、将来を考えて政策判断をすべきであることは言うまでもない。執行部も議会も将来像として認識を共有する総合計画（マスタープラン）の実現に向けて努力することの重要性は再認識できた。
- ・ 将来あるべき姿として施策を実行するためにはマスタープランに計画を盛り込み、その実現に向け予算化することの必要性を学ぶことができた。
- ・ 将来の市民が先人は良くやってくれたとの判断に至るように現在の市民に対して論理的かつ客観的な説明により合意形成を図ることの大切さを再認識できた有意義な研修となった。

